

令和6年度当初予算 概要

令和6年2月
建設局

1 令和6年度 予算規模

(単位:百万円)

	令和6年度 当初予算案(A)	令和5年度 当初予算(B)	増減 (A)－(B)
一般会計	24,981	24,958	23
土地区画整理 特別会計	764	667	97
土地取得 特別会計	5,200	4,467	733
合計	30,945	30,092	853

※一般会計については職員給与費を除く

2 主要施策

新規 こどもまんなか公園の推進

【32百万円】

こども目線の公園づくりや子育て世代が憩える環境づくりを行うことで、「こどもまんなか公園」を推進する。

※桃園公園等施設再配置計画推進事業(12百万円)を再掲

みんなで考える未来の公園づくり事業

➤こども・子育て世代・若者などの意見を聞きながら未来の公園の在り方を検討

こども・子育て世代・若者の
意見を聞き取り



こども・子育て世代・若者が
憩える公園づくり



公園づくりへ反映

憩える公園づくり事業

➤子育て世代などが公園で憩える環境整備のため、公園の木陰等へテーブルベンチを設置



整備イメージ

【関連事業(桃園公園等施設再配置計画推進事業)】

桃園公園 わんぱく広場

近隣の小学生・子育て世代などの意見を
反映したこども向け遊具広場を設計



整備イメージ

道路ネットワークの整備

【4, 715百万円】

主要な道路を整備し、環状放射型ネットワークを構築

◆都市計画道路戸畑枝光線、主要地方道恒見朽網線、国道3号黒崎バイパス(国土交通省直轄事業)など

環状放射型ネットワークの構築



幹線道路の整備による効果

渋滞の解消

- 交通の分散による、**所要時間の短縮**
 【例】黒崎バイパス春の町ランプの開通による効果
 陣原～春の町の所要時間：約 **18分**短縮 (約24→6分)
- 円滑な通行の確保による、幹線道路の**事故の抑制**
- 抜け道利用の通過交通排除による、**通学路等の安全確保**



災害時の安定的な人流・物流の確保



企業立地や住宅開発等の促進

- 【例】黒崎バイパスのランプ10分圏域での状況 (H20→R4)
 - ・企業立地 約 **12倍** (7→ 88社)
 - ・共同住宅の分譲 約 **19倍** (7→131棟)



主要河川の整備

【1,503百万円】

近年、激甚化・頻発化する豪雨災害等の浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を実施します。

◆紫川、神嶽川、江川、相割川 など

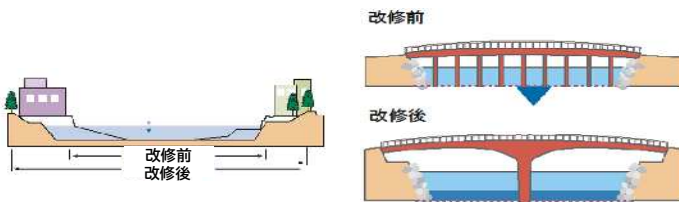
<被害状況>

平成30年7月豪雨:市内では、1時間あたり70mm前後の大雨が降り、31河川において、氾濫による浸水被害が発生



治水対策の基本的な考え方は、「**河川の水位を下げること!**」
「広げる」「掘る」「貯める」により、川の水位を下げます。

広げる



川幅を広げて、河川の水位を下げます。
また、橋を架け替えて、水を流れやすくします。



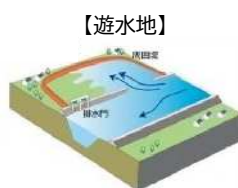
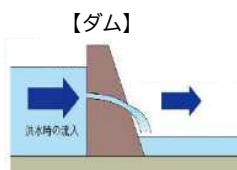
掘る



川底を掘って、
川の水位を下げます。



貯める



一時的に水を貯め、川に流れる水の量を減らし、河川の水位を下げます。 ※イラスト:『国土交通省 河川事業概要2023』より

旦過地区再整備事業

【957百万円】

【うち155百万円は、「主要河川の整備」の再掲】

旦過地区の土地区画整理事業と神嶽川の河川改修事業を一体的に実施します。神嶽川の浸水対策や旦過市場の建物の老朽化など、防災面の課題を解決するとともに、都心部の更なるにぎわい創出を図ります。

【旦過地区の現状】



H22年の浸水状況



河川上空に張り出した店舗



木造建物等の老朽化



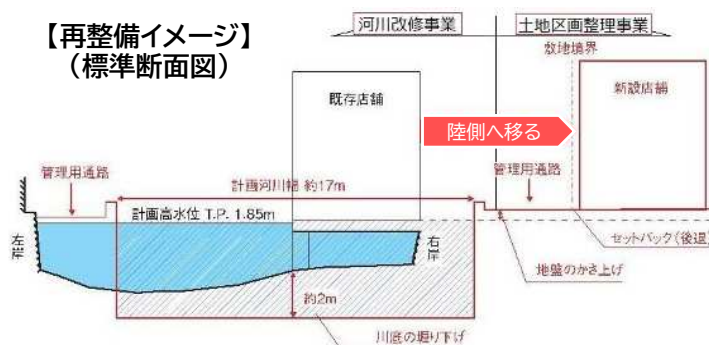
小規模な建物が密集

【旦過地区の課題】

- ・ 神嶽川の能力不足による度重なる浸水被害
- ・ 木造建物の密集や老朽化
- ・ 既存商業面積の確保
- ・ 市場機能の維持

河川改修だけを実施した場合、市場通りに面した多くの店舗の移転が必要となり、市場の対面販売等の魅力・にぎわいが大きく失われるおそれがある。

神嶽川河川改修と土地区画整理事業をあわせた旦過地区のまちづくりが必要



【再整備イメージ】 (標準断面図)

【完成イメージ】



※ 今後、変更になる場合があります。

3 主な事業

「稼げるまち」の実現

●稼げる「基盤」をつくる

- ・道路ネットワークの整備 4,715百万円
(他に債務負担200百万円)

主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備し、物流ネットワークの機能強化、地域間の連携・交流促進、市内の渋滞対策を図る

- ・若戸大橋・若戸トンネルの強靱化 911百万円
(他に債務負担500百万円)

若戸大橋・若戸トンネルにおける、日常的な維持管理や、早急に補修が必要な箇所の修繕等を行うとともに、若戸大橋について、法定定期点検及び劣化が進んでいる取付橋や舗装の補修、橋梁の塗替え等を実施

- ・安定的な物流確保に向けた道路施設の強靱化（一部再掲） 2,427百万円
(他に債務負担110百万円)

効率的かつ効果的な施設の維持管理を図るため、アセットマネジメントの考え方を取り入れ、定期的な点検の結果に基づき、橋梁やトンネル、モノレール等の状態に応じた計画的な修繕・耐震工事を行うなど、道路施設の強靱化を推進

- ・災害時における緊急輸送道路の確保 338百万円
(他に債務負担110百万円)

地震等による災害時に重要な役割を果たす緊急輸送道路に架かる橋梁の耐震補強などを実施

「彩りあるまち」の実現

●彩りある「空間」をつくる

- 新規** ・こどもまんなか公園の推進（一部再掲） 32百万円

こども目線の公園づくりや子育て世代が憩える環境づくりを行うことで、「こどもまんなか公園」を推進

- 新規** ・一人一花運動推進事業 5百万円

市民・企業・行政一人ひとりが花づくりを通じて、人のつながりや心を豊かにし、まちの魅力や価値を高めるため、花による共創のまちづくりを推進

- ・旦過地区再整備事業（一部再掲） 957百万円
(他に債務負担3,280百万円)

旦過地区の土地区画整理事業と神嶽川の河川改修事業を一体的に実施し、神嶽川の浸水対策や旦過市場の建物の老朽化など、防災面の課題を解決するとともに、都心部の更なるにぎわいを創出

- ・桃園公園等施設再配置計画推進事業 302百万円
桃園公園や城山緑地におけるスポーツ施設等の再配置やわんぱく広場の再整備を推進
- ・地域に役立つ公園づくり事業 170百万円
小学校区を基本に既存の公園の再整備について、幅広く地域の意見を聞きながら公園の計画づくりを行い、地域住民と協働して、地域ニーズに合う公園改修を実施
- ・道路サポーター事業 16百万円
道路の清掃や花壇の手入れなどのボランティア活動を行う地域の団体を支援し、市民との協働により美しいまちづくりを進める
- ・河川愛護団体補助事業 1百万円
河川の清掃や草刈などのボランティア活動を行う地域の団体を支援し、市民との協働による河川環境の保全に努める
- ・公園愛護会補助事業 5百万円
公園の除草や清掃、花壇づくりなどのボランティア活動を行う地域の団体を支援し、市民との協働による美しい公園づくりに努める

●彩りある「時」をつくる

- 拡充 ・皿倉山リニューアル事業 277百万円
リニューアル計画に基づいた山頂広場等の整備により、皿倉山の更なる魅力向上を推進
- ・自転車を快適に利用できる環境づくり（一部再掲） 116百万円
環境負荷の少ない自転車の活用を推進するため、自転車道を整備し安全で快適な通行空間を確保するとともに、自転車を活用した観光振興である「サイクルツーリズム」を進める

「安らぐまち」の実現

●生活基盤の「安心」を支える

- ・主要河川の整備 1,503百万円
(他に債務負担733百万円)
近年、激甚化・頻発化する豪雨災害等の浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を実施
- 拡充 ・豪雨災害から市民を守る緊急対策事業 598百万円
平成30年7月豪雨により被害が発生した河川の改修や河川情報システムの強化等により、市民が安全・安心を感じるまちづくりを推進
- ・公園施設長寿命化対策事業 491百万円
公園利用者の安全性・利用満足度を確保しつつ、維持管理コストの削減を図るため、計画的な施設の更新・改修を実施

・DX 推進事業

11百万円

デジタル技術を活用して、市民サービスの向上、事務の効率化や適正なインフラの維持管理を進めるため、「AIによる道路施設の健全化診断システム」の効果検証、「道路占用システム」の維持及び「自転車駐車場キャッシュレス決済」の運用を実施

●暮らしの「安心」を支える

・安全で快適な歩行空間の整備（一部再掲）

591百万円

すべての人が安全で快適に歩行できるよう、歩道の新設や拡幅、段差の解消を行うなど、利用しやすい歩行空間の整備を推進

●子ども・子育ての「安心」を支える

・通学路の安全対策の強化

793百万円

児童が安全に通学できる環境を整えるため、「北九州市通学路交通安全プログラム」に基づき、教育委員会や学校関係者、警察と一体となって、通学路の安全対策を推進

【問合せ先(全体に関すること)】
建設局 総務課
TEL 093-582-2252